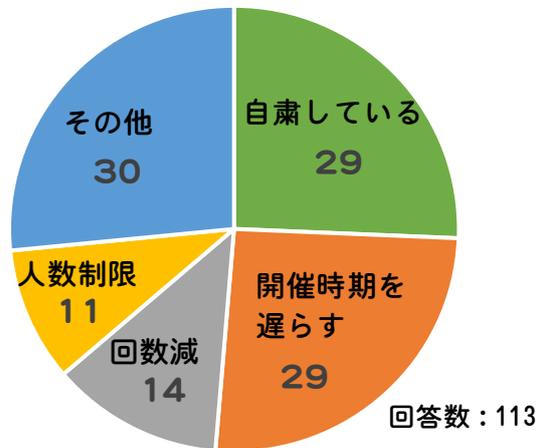


## コロナ禍における地域活動に関するアンケートまとめ

令和2年10月にサロン活動実施組織の方々にご協力いただき、標記アンケートを実施しました。その結果は、下記のとおりでした。この結果は、次年度以降の支援に活かします。

アンケート配布数：123 回収アンケート数：105（回収率 85.4%）

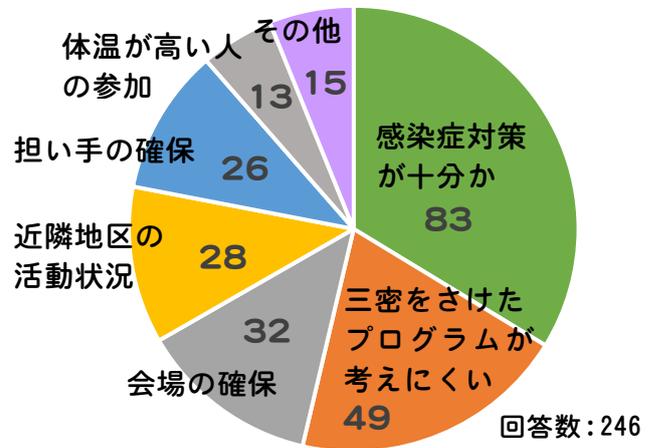
### 質問1 今年度のサロン活動（複数回答可）



「その他」に記載された主な意見

- ・感染予防しながら、いつもどおり活動
- ・どうしたら出来るかを考えながら活動
- ・時間短縮や内容変更しながら活動
- ・集まる形での開催は自粛し、高齢者訪問を中心に活動
- ・実施する予定だが、三密が気にかかるので様子をさぐりながら行う

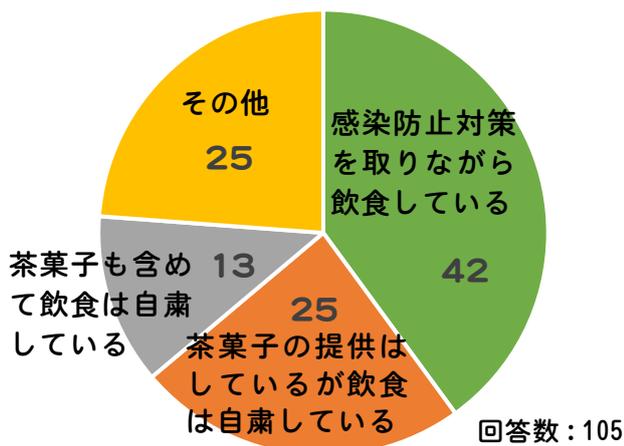
### 質問2 活動する上での不安（複数回答可）



「その他」に記載された主な意見

- ・話をしだすとマスクをしていても顔が近づいてしまう
- ・引きこもりがちの方が、少しでも心安らげるような取り組みをしたいが、必要性和感染リスクとのバランスのとり方
- ・サロンに来られる方の不安はこちらが対策しても取り除けない
- ・参加者の理解と協力

### 質問3 サロンでの飲食



「その他」に記載された主な意見

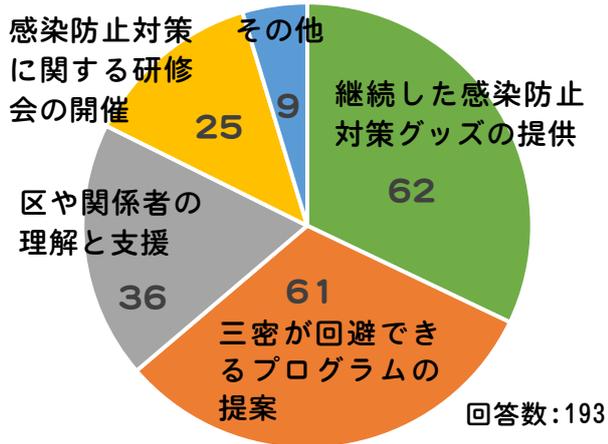
- ・これ迄から茶菓子のみ提供。今年は1人分ずつ袋に入れ提供
- ・紙コップでコーヒーを提供しているが、茶菓子は持ち帰っている
- ・感染防止対策の徹底を図りながら飲食を行う予定

### 質問4 今年度の活動で工夫されていること

記載された意見を一部抜粋

- ・事前申し込み制でいくつもりです
- ・「料理教室」等、特に感染リスクの高いプログラムは他の物に変更。茶話会での菓子はすべて個別包装のものにした。ゲーム等での用具の消毒を徹底
- ・これまで実施してきたゲーム、カラオケ等を中止し、地域のなつかしい映像を上映するなど
- ・皆で共有して使っていたものを個人で準備していただいたり、間違い探しなど集中して、たくさんの会話にならないようにした
- ・検温、手指消毒、マスク着用、密を避ける 以外には特にありません
- ・コロナ対策が万全にできないため自粛しているので、今年度は活動をしない

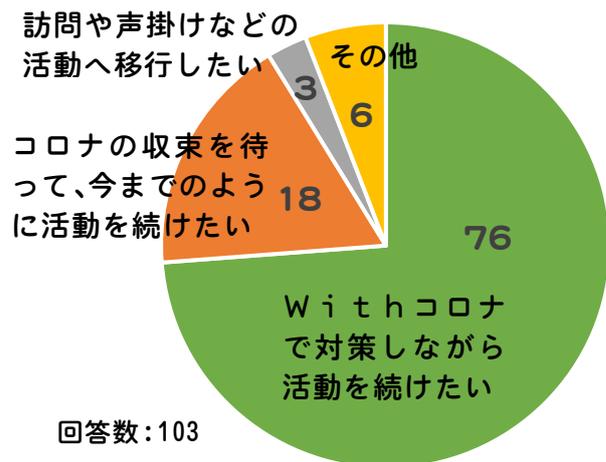
質問5 活動を継続または再開する上で必要だと感じる支援(複数回答可)



「その他」に記載された主な意見

- ・担い手は感染防止対策をとりながらも「もし感染者が出たら」との不安を誰もが常に持っている。このコロナ禍だからこそ高齢者の孤立を防ごうとサロンしている。担い手支援のため社協担当者が顔を見せるだけでもよいのでは!?
- ・地域のサロン活動で例えばこんな形での開催ならより安全に参加できる…という実例を教えてください。(基本的な対策も含めて)

質問6 来年度の活動



「その他」に記載された主な意見

- ・期待されているので、できる範囲で実施したい
- ・できる活動をしばって、感染対策もしながらサロン活動をやってみたい
- ・具体的に来年度の活動方法の話ができません。
- ・コロナの収束状況を確認し計画・実施を図る

質問7 コロナ禍での地域の様子、いつも来られていた参加者のかたの様子など (一部抜粋)

- ・感染を気にして参加しにくい方には無理をされないように声かけて(無理じいせず)いますが、ほとんどの方はコロナ禍で気分が落ち込むので、活動を望むという思いを持っておられます。その思いを大切にするためにも感染防止に力を入れながら活動したいです。検温でいつも高めの方が一時期体温を測ることを恐れられて外出を拒まれる様な事があった。
- ・「外に出なくなって足腰が弱くなった」と言う人が多い。3月・4月・5月はサロンを中止していた。担い手の中から今までのつながりがなくなってしまうことへの危機感が出て、サロン参加者や高齢者への声かけをしようと提案され、6月は「ふれあいサロンお便り」を作って手紙を入れる(距離をとって会話をする)訪問活動をした。7月からサロン実施したところ、久しぶりの再会を大変喜ばれた。その参加者の様子から、やはり人との交流は大切でサロンを実施する必要性を感じた。
- ・高齢者(特に80歳をこえている)が家族から感染するのでどこにも行くなと言われ、家に閉じこもってストレスが溜まっているとの声を聞いている。予防対策を取りながら、交流できる場が必要と感じる。
- ・4・5・6月サロンを自粛していたため、お母さん方は「どこも出かける場所がなく、とてもストレスだった」と口々に話していた。7月にサロン実施したところ「待ってました!」と喜ばれた。お母さん方…実家が京阪神や遠くの人が多く、帰省できず寂しい思いをしている。
- ・お母さん同士がコミュニケーションを取れる場所や、子どもたちの遊ぶ場所(室内)が減っていることに困っている声はよく聞かれます。
- ・私自身は顔を合わせてコミュニケーションをとっていくことがこの地域にとってとても大切なことと考えています。なので対策をとりながら今までどおりの活動を続けていきたいと思っています。しかし高齢化がますます進む中、リスクを負ってまで行う必要を感じないと言われる方もあり、これからの活動の難しさを感じています。